授業再開は何を意味するか!

1月26日 理斗者の提案した法学部階段での教員等による集会を教授会は一方的には約り26日開、理工学部への機動隊導入が行なわれるかわりで学生部に於いて名目は教授会の自主運営路線の説明会と称しつつ実、授業再開を意図した学部集会を強行した。その裏で教官を自主運営路線、機動隊による解決路線を与う教授会が26日の導入に就時ないばかりか本何学部長代行が導入に全力うという事態の説明をした。しかしながら教授会は本日の導入は無期限であるが故に再び立ち入る事がないと言え自主運営路線の確立を強調した。

26日が単に強制撤去ならば何故機動隊だけでなく学校当局の雇った作業員が入りバリケード撤去を行ない1号館内を徹底に破壊しかつ壁にも落書きしたのか、又教授会の認めていない事務局長が導入に際して実際の権限を持ち得ないの説明を受けていたなどの様に説明するのか教授会はこれに対して抗議の声明さえも発せていない。

又この集会に於いて彼等は留年学生処遇の明確を行なわない点に組織動員された教官本位の機動隊の石翼分子のザンに乗かり学生が授業を望んでいるかと一方的に規定付けて、この斗争を少しも考えない形で授業再開を宣言するに至った。現実に四年に対する臨時授業は開始され、これを

機にコ・ミ・ケの授業再開そして学内正常化の為の学部集会が準備されつつある。一体彼等のいう正常化とは何か? 現在の様に理工学部を除く全ての学部長の辞表に応じ何も出来ない教授会の行なう吉田体制下での授業を受けるのが正常と言えるのだろうか? その後には当然学内機動隊をはじめ石翼分子の暗躍が予想されるだろう。理工学部教授会は決して石翼の集りと言えないとしかし、がし彼等に何が出来るのか、反動学部長を追出す事さえ出来ない彼等に!

学友諸君、事実が今何は説明しよう。工学部に於いては学物の着た石翼二名がヘルメットをかぶり観衆されたと称する為て押しかけ、学長に対してリンチを加え、更なる学生に対してまで暴力をふるった。それ何より恐れてならない点は彼等の背後には国家権力機動隊が配置されており石翼の暴力を助けるという場である。この様な状況が理工学部に今まさに起ころうとしている。又日大のような石翼暴力集団を許してよいのだろうか! 我々はまったく許せないかくなる上は全学部封鎖のみ!! 全ての学友諸君、理工学部を救え学生の

物理学科斗争委員会